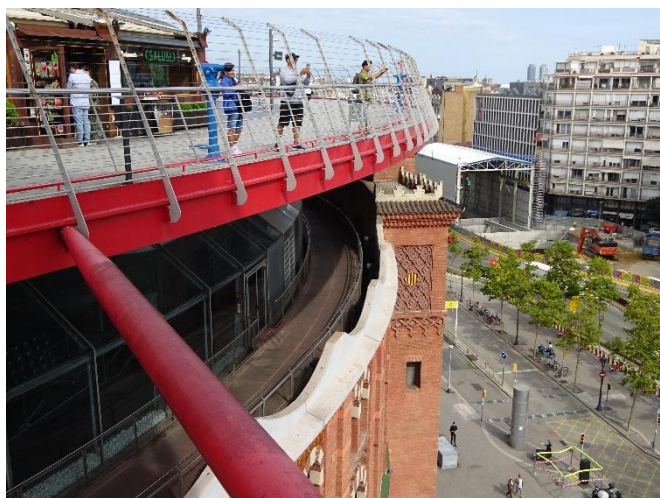


ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 642

2025.10



2025年10月1日（毎月発行）定価200円 642号通巻第642号第55巻第10号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人／杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町361番地 誠志堂ビル3階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- | | |
|-------------------------|------|
| 03 市民防災フォーラム報告 | 山下千佳 |
| 06 第 55 回「地球温暖化について考える」 | 渡辺政利 |
| 08 鋸屋根に魅せられて | 吉田敬子 |
| 10 アジアンニュース No.33 | TN |

今月の表紙 提供：山下千佳

事務所研修でスペインに行きました。
バルセロナの 1900 年につくられた闘牛
場（1977 年まで）を 2011 年にショ
ッピングモールとしてリノベーションした
「Arenas de Barcelona」

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎11/05 水 18:30 第 6 回常任幹事会 @新建事務所
◎11/22 土 15:00 拡大幹事会 大会議案討議
@新建事務所

拡大幹事会には、幹事の方は必ずご出席ください。大会議案討議ですので、幹事でない会員の方の出席も大歓迎です。交流も兼ねて楽しい時間を過ごしたいと思います。

★大会議案は 10 月の「建まち誌」に掲載されますが、事前に会員メーリングリストで配信します。
各自、お読みいただくと合わせて、プレ企画の読み合わせ会にもご参加ください。

全国

- ◎10/25 土-26 日 建築とまちづくりセミナー in 仙台

<大会プレ企画 大会議案読み合わせ会> いずれも 19 時～ @ZOOM
・第 1 回 11/01 土 情勢 ・第 2 回 11/08 土 活動のまとめ
・第 3 回 11/15 土 活動方針 ・第 4 回 11/23 日 全体を通して

◎11/29 土 第 35 回 全国大会 @ZOOM

会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆11/05 水-09 日 2025 年日本建築学会文化賞受賞記念写真展「のこぎり屋根に魅せられて」（吉田）
写真展とトークショー @入間市アミーゴ
◆11/08 土 全国災対連 災害被災地交流集会 @全労連会館+ZOOM （千代崎）
◆11/15 土 憲法フォークジャンボリー（村上） @滝野川会館

第 35 回 全国大会

2 年ごとに大会が開催され、今年は設立 55 年の節目となりました。多くの課題や要求に新建としてどう取り組んでいか、充分議論し今後の展望を切り開いていく、これからの新建運動を展望する重要な機会です。

大会はオンラインでおこなわれます。東京支部からの代議員選出は 4 名です。会員のみなさんは、ぜひオブザーバーとして、ご参加ください。大会に参加できる方は 11 月 8 日までに東京支部事務局のメールでお知らせください。



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

市民防災デー

～知ることから始まる、私たちの防災・まちづくり～

山下千佳



9月6日(土)10時30分から16時30分、板橋区立グリーンホール1階で開催しました。地震や防災をさまざまな視点から3名の講師の方に講演をしていただきました。参加者は81名、主催団体も含めてブース展示は11組で盛会でした。

会場には地震の被災地支援に行った際に撮影した写真のパネル、設計協同フォーラムは戸建てとマンションの耐震補強、新建東京支部は1991年「汐風の間文化都市構想 臨海部土地利用計画新建試案」と2024年に発表した神宮外苑「再開発に待ったを！『秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案』」の展示をしました。

また、今回は「みんなでつくろう！安心・元気なまち『まちづくり交流ひろば』」のブースを設置しました。9団体の仲間が集まり、暮らしや安全・文化をテーマに防災や住民参加のまちづくり、江戸文化や芸術の伝承、平和の大切さなどの活動をする団体が一堂に会しました。講座だけの予定でしたが、まちづくりの展示と各団体の5分間アピールをしたことで全体が豊かな雰囲気となりました。最後に「地域のことを知り、話し合い、未来を一緒に考える時間を共有しましょう。あなたの一歩で、安心して暮らせるまちをつくりましょう。」とまとめました。

「最新の地震を知って震災に備える」平田直氏（東京大学名誉教授・地震学者）

近年、日本や周辺の国では大きな地震が相次いでいます。2025年7月にはカムチャッカ半島沖でM8.8の巨大地震が発生し、日本でも津波警報が出されました。2024年8月の日向灘地震（M7.1）では宮崎県で震度6弱を観測、「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されています。また、同年元日の能登半島地震（M7.6）では最大震度7を記録し、津波や家屋倒壊で多くの犠牲が出ました。これらは地震被害の多様性を示す事例です。なかでも今後最も警戒すべきは南海トラフ巨大地震です。30年以内に70～80%の確率で発生するとされ、M8～M9規模に達すると予測されています。震度6弱以上の揺れは関東西部から九州まで広がり、津波は高知県で最大34メートルに達する可能性があります。最悪の場合、死者は約30万人と推計され、東日本大震災を大きく上回る被害が想定されています。

平田氏は「『地震を正確に予知することはできない』ので、備えと行動が命を左右します。日頃から『どこへ逃げるか、どの経路を通るか、誰と避難するか、何を持つか』を確認し、家具の固定や非常持ち出し品の準備をしておくことが必要です。能登半島地震や日向灘地震、カムチャッカ地震の経験は、地震の脅威を改めて示しました。地震を知り、日常の備えにつなげるからこそ、多くの命を救う鍵となります。」とまとめ、最後に防災のポイントとなる「建物の耐震化で命を守る・避難所環境の改善で災害関連死をなくし命をつなぐ・住宅再建やインフラ維持で生活を守る」という3つの柱を強調されました。



「タワマンが大地震に見舞われたら～東日本大震災・仙台タワマンの経験から～」

村島正彦氏（都市計画コンサルタント）

仙台のタワーマンション被災経験を踏まえ、首都直下地震などが首都圏のタワマンを襲った場合の影響を話されました。耐震構造では上階で大きな揺れが生じ家具転倒や窓破損もある一方、免震構造は被害を抑制します。大規模地震後は在宅避難が基本とされますが、停電・断水・ガス停止やトイレ・エレベーターの長期使用不能が想定されます。機械式駐車場も損傷で機能停止する恐れがあります。家具固定や簡易トイレ備蓄など具体的対策が重要と指摘されました。



2025年のミャンマー地震では震源から1000km以上離れたタイ・バンコクの超高層ビルが共振し、長周期振動によって超高層建物だけの問題ではなく、周辺や離れた場所に影響を及ぼすことが映像で紹介されました。

「聞き書きによる関東大震災の全体像」

森まゆみ氏（作家・編集者／地域誌『谷中・根津・千駄木』元編集長）

1923年9月1日、相模湾を震源とする関東大震災が発生し、死者約10万5千人、住宅約29万戸が全焼・全壊しました。昼時の火災が被害を拡大し、特に本所被服廠跡では約3万8千人が犠牲となりました。避難は上野公園など大規模におこなわれました。情報遮断や流言飛語により「朝鮮人が井戸に毒を入れた」などの虚偽が広まり、軍隊や自警団・警察により朝鮮人・中国人・社会主義者などが虐殺されました。戒厳令の下、社会不安は拡大しましたが、復興は迅速に進み、鉄筋コンクリート建築や道路拡幅が進められた一方で、民衆暴力や行政の恐怖政治も課題を残しました。



当時の人々の証言と資料で描いた様子、生活の中での恐怖や避難の実態、市民の助け合いや復興の歩みなど、関東大震災から100年を過ぎ、記憶している方からの話を記録にすることの大切さを感じる講演でした。



その後、交流のひろばとして、「加賀まちづくり協議会」「特定整備路線補助26号線を考える会」「せたがや防災NPOアクション」「旧図書館跡地利用の会」「上板橋まちづくりを考える会」「江戸学事始—江戸文化の伝承」「浮輪寮同友会—芸術文化の交流と里山の伝承」「住民参加のまちづくりを考える会@高島平」「戦争反対！憲法改悪を許さないオール板橋」市民運動に取り組む人たちから報告をしてもらいました。



「加賀まちづくり協議会」の説明をする千代崎一夫さん



「江戸学事始と浮輪寮同友会」の説明をする丸谷博男さん

情報を共有・交流するよさを実感

市民防災デーには当日次のような感想が寄せられました。

「最近の地震を知って、震災に備える」については「日本は地震列島であり常に備えが必要と再認識した」「素人にもわかりやすい内容で、もっと時間が欲しかった」「地震に関する総合的な知識を得られた」。

「タワマンが大地震に見舞われたら」については、「仙台のタワマン被害の具体例がなく物足りなかった」「内容は期待外れで新しい情報が少なかった」「タワマンは危険と思っていたが、むしろ地震対策がされていると知った」。

「聞き書きによる関東大震災の全体像」については、「聞き語りにより震災を身近に感じられた」「長年の取材の迫力を感じた」「朝鮮人虐殺の背景などを知れて興味深かった」。

「まちづくり交流のひろば」については、「交流の場が増えれば連帯感が生まれると感じた」「発表の時間が短く、高齢者中心なのが課題」「地域の課題を共有できたことが良かった」。

このほか、まちづくり・まち壊しで気になることとして、「再開発だけでは解決できない問題がある」「加賀町地区の積み重ねに感動した」「利益優先や弱者排除、都市形成の破壊が懸念される」。

全体の感想として「講演は的を絞った方が良いが企画は素晴らしい。大変勉強になった」といううれしい感想をいただきました。

今回の企画で、学ぶ、情報を共有する、交流をして活動の輪を広げる、そのような場をつくることの重要性をあらためて感じました。東京支部の域に根ざした活動の実践とも言えると思います。



新潟地震・中越沖地震・東日本大震災・熊本地震など、被災地支援に訪れた際に撮影した写真パネルを展示



「せたがや防災 NPO アクション」の説明をする井上文さん

11 団体のパネルやチラシ・ニュース展示

第 55 回 「地球温暖化について考える」

渡辺政利

グローバル・カーボン・プロジェクト（GCP）

地球全体の炭素循環システムを監視・分析し、その変化を科学的に解明することを目的として、2001 年に発足した国際研究プロジェクトに「グローバル・カーボン・プロジェクト（G C P）」という研究機関があるようです。

ネットで調べるとその機能や目的は、世界各地から集まった研究者達が協力して、大気、海洋、陸域における炭素の動きを詳細に調査し、その研究成果は、地球温暖化の将来予測や国際的な排出削減目標の策定に活用されているとされています。炭素循環のメカニズムや気候変動との関連性を求めて、観測データの収集を行い、地球規模で気候循環のメカニズムを解明し、その変化を監視・予測するということのようにです。自然科学だけでなく、社会科学を巻き込んだ学際的研究体制を誇ると紹介されています。世界各地から集まった研究者達が、協力して観測データの収集・分析、モデル開発を行い、炭素循環のメカニズムや気候変動との関連性を明らかにしようと日々研究を進めていると紹介されています。

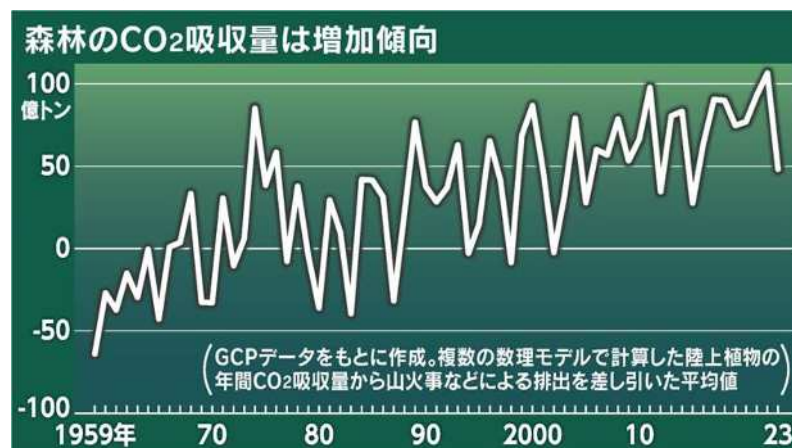
また、研究を進める上で「地球システム科学パートナーシップ（E S S P）」という研究機

関との連携は、その広範な活動を支える重要な柱と記されています。深い理解は叶いませんが E S S P について簡単に調べてみると、気候変動、生物多様性、水資源など、地球システム全体の複雑な相互作用を理解するための国際的研究プログラムと紹介されています。

いずれの研究機関も地球温暖化について高度に専門的な研究を全地球的規模で進めているということのようで、全地球的気候問題解明について重要な役割を果たしているものと思われます。

減る森林が人類に警鐘

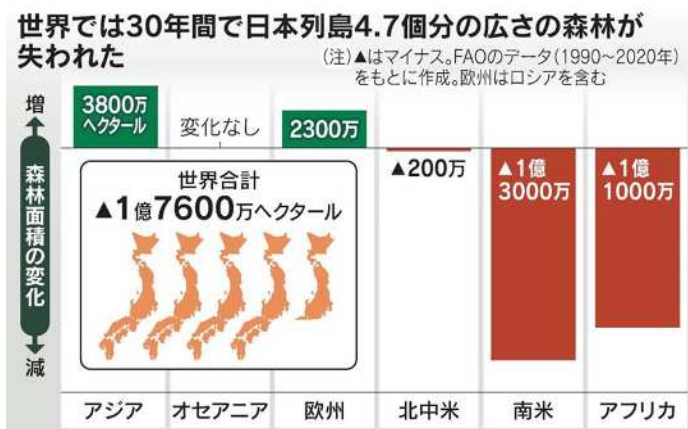
上に挙げたグローバル・カーボン・プロジェクト（G C P）が 2024 年にまとめたデータによると、1990 年以降はほぼ毎年（アメリカ・ロサンゼルス近郊で発生した大規模な山火事や、南米、アフリカなどで進められている森林伐採による開拓・刈り取りで植物面積は大幅に減少しているにも関わらず）地球温暖化の影響で光合成は活発化し、森林は減少にも関わらず地球の年間 CO₂吸収量は 50 年前から 50 億トン増え、全世界の森林による CO₂吸収量は、自然それ自体から排出された CO₂量を上回っているといえます。



地球温暖化の主因は、人類活動による CO₂排出増加にあります。18 世紀の産業革命以降、大気中の CO₂濃度は上昇傾向が続き、工業化以前 278ppm (ppm は 100 万分の 1) であったものが、23 年には 420ppm となり、1.5 倍以上となっています。森林の CO₂吸収量が増えても大気中の CO₂濃度は上がり続けており、温暖化対策が不要になることはないのです。化石燃料燃焼による CO₂排出増加が急速に進んでいるためです。

しかし一方、実際の森林面積は減り続けており、CO₂吸収能力は弱まっています。世界銀行によると、1992 年に陸域の面積の 33%を森林が占めていたが、2022 年には 31%と 2%減少したといいます。樹木を伐採して農地拡大を行ったり、樹木を焼いたりする人間活動が原因です。

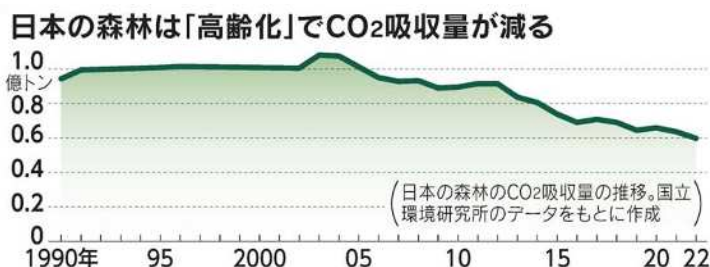
24 年 12 月、林野庁が開いた国際シンポジウムで国連森林フォーラム (U N F F) の高田実次長は「世界で年間 1000 歳の森林が消失し、損失は年間 GDP の 10%に相当する」と、国や企業などが森林への関心を高める必要性を訴えました。世界では 30 年間で日本列島 4.7 個分の森林面積が失われたと言います。



図からアジア、欧州が 1990 年から 2020 年の 30 年間で 6 1 0 0 ヘクタール増えたことが分か

ります。中国では砂漠化に対処するため、22 年までの 30 年余りで国土に対する森林面積を 16.3%から 23.8%に増やしたとされます。欧州でも 23 万ヘクタール増えました。植林活動の他、放牧地が縮小して森林が回復したのです。

これに対して日本は、CO₂吸収量は 2003 年頃の約 1 億 1000 万トンにピークに減り続け、22 年には 6000 万トンを割り込みました。国土の約 3 分の 2 を森林が覆う日本では、樹木が高齢化して成長しにくくなり、CO₂吸収量が減っています。



日本の森林の 4 割を占める人工林の内、半数が植林してから 50 年を超え、成長が止まっています。老木は建材に活用しながら若い苗木に取り替えていく必要があると言えます。

2025 年、ロスアンゼルス、大船渡、岡山、今治など国内外で森林火災が相次ぎました。高温や乾燥は火災リスクを高めますが、温暖化によりさらに深刻になっていると言えます。

森林を保全することは温暖化対策だけでなく、生物多様性の確保や、水の浄化にもつながります。今ある森を保護しながら植林などで増やすことも必要があります。

この項は私の友人 K 氏を送ってくれた資料によるもので、その内容に基づいて、私の解釈を入れながら記したものです。この資料・文章には 岩井淳哉、グラフィクス藤沢愛と記入がありますが、原作者の記名と思われます。

(つづく)

鋸屋根に魅せられて

中国・蘇州^{スウジョウ}-② 写真家 吉田敬子

2004 年、鋸屋根師匠の野口三郎先生から「蘇州にある鋸屋根の解体が急速に始まりました。なるべく早くお越し下さい。案内します。」と連絡を頂きました。先生は、蘇州市職業大学で日本語の教師をしながら、学生たちと鋸屋根の調査をしています。ここ 2〜3 年急速に取り壊しが進んでいるので、早目に一度来たほうがいい、という連絡でした。ところが昨年（2003 年）新型肺炎 SARS で世界中が大騒ぎとなり、中国・蘇州の方も授業は休講、防止策は国挙げての「禁足」となり出国できませんでした。幸か不幸か、この間は解体工事も中止になり、あまり気にしないように。と逆に励まされ、2004 年 6 月 6 日〜10 日まで蘇州へ行きました。初日は師匠が滞在している大学の寮を訪ねました。自炊生活なので、いつも買い物をする、と言う市場を案内して頂きました。豊富な食材と活気溢れる中国語は迫力ありました。師匠から、来る時に日本の削り節を頼まれ持参しました。大変喜ばれ、茹でたチンゲン菜に削り節をかけた、自慢の一品を頂きました。滞在中はレンタサイクルを進められ市内の地図も頂きました。翌日は師匠から連絡がありました。「吉田さんに見せたいレンガ造の鋸屋根があります。案内できますので、大学まで来て下さい。」と連絡がありました。

レンガ造 3 連鋸屋根：蘇州市同心紙製品工場 2004 年 6 月撮影



連絡を頂きカメラ片手にいざ大学へ
現地までは先生の友人、陸^{りく}さんの車で
出発です。市街地から解放西路を
経て北京と杭州を結ぶ京抗運河に架
かる普源橋のたもとまで来ると、左
前方に、煙突と赤レンガの鋸屋根が
見えて来ました。正門には大きな文
字で「同心紙製品工場」とあり存在
感を放っていました。陸さんに通訳
をして頂き訪ねました。日焼けした
工場長が笑顔で歓迎して下さい、工
場内部を案内してくれました。広い
敷地内には、ドーム型屋根の工場が
あり、その奥にレンガ造3連鋸屋根
と、2本の大きな煙突がどっしりと
佇んでいました。ドーム型工場の天
井は高く、幻想的な空間はモスクの
ようでした。鋸屋根の構造材は、柱
はRC造、トラスと梁は木造、壁は
レンガでした。工場は1950年頃の
建築で、創建当時から陶器工場でし
たが、20年前に紙の加工用工場に転
用しました。レンガ造鋸屋根は使用
していませんが「今のところ解体す
るなどと考えたこともないよ」と微
笑んだ工場長の顔が忘れられません。
野口先生は2002年9月から蘇州市
内の鋸屋根工場を調査され資料を残
しました。帰国前には「蘇州の旅」
というガイドブックに先生は蘇州の
鋸屋根を紹介していました。私も蘇
州の鋸屋根を日本で紹介します。
鋸屋根師匠・野口三郎先生「再見」
再見（ザイチェン）また会う日まで。

写真説明：上より3枚「蘇州市同心紙製品工場」
野口先生（左）と陸さん（右）背景は鋸屋根工場



ベルリンのベトナム人街(後編)(前編は機会あれば)

ドンスアン・センターの店舗はベトナム系だけかと思っていたが、インドや中東系もざっと見たところ全体の4割から半分程度と結構な割合を占めている。彼の地の人たちが好むファッションや食品を取り扱っており、一つの建物でベトナムとインド～中東という不思議なすみわけがなされていた。いずれにしても、ドンスアン・センターに入場する際、中東系の人たちが多かった理由が理解できた。

屋内市場。建物の中央を貫くように1本の廊下が通る
色とりどりのファッション雑貨を扱う店
繁盛していたスマートフォンショップ



屋内市場入り口付近に、イベントや店舗などの掲示物が貼り出されている

ドイツ人に意外と人気だったのが理髪店だ。店ごとに料金設定は異なるが、カットだけであ

れば大部分が男性は10ユーロ(約1700円)、女性は15ユーロ(約2500円)。現地では安いほうなのかもしれない。あるいはベトナム人美容師の腕が良いということも、人気の理由として考えられる。

ドンスアン・センターに多い理髪・美容の店

理髪店は、他に比べ呼び込みが盛んだ。店先に出された価格表を眺めているだけでもスタッフが出てきて「ハロー！」などと声をかけ、手招きしてくる。試しに髪を切ってみようと店に入ったが、散髪担当の女性がドイツ語とベトナム語のみに対応しており、希望の髪型を詳細に伝えられなかったため諦めてしまった。写真を見ながら指差しで注文できるという点では、ネイルサロンのほうが外国人には入りやすいのかもしれない。

ベトナム人やインド～中東系の在住者に人気があるのは食料

品店だ。ドイツに住んではいても、やはりルーツとなる国の味が恋しくなるもの。週末に食料品をまとめ買いしようと、多くの来店客が行き来していた。



類もあった。

繁盛する店内には、入荷した商品を入れたダンボール箱が次々運び込まれている。すかさず店員たちが声を掛け合い、品薄になった商品の補充作業。レジ前には列ができており、一つの会計を終えるたびに「次の方～！」と店員の声上がる。週末の食料品店の中はとても忙しく、活気でいっぱい満たされていた。

アジアニュースNo.33
(ベトナム中心) TN



ベトナム系の店では、ヌックナムなどの調味料からライスペーパー、乾麺、パクチーなど基本の食材は一通りそろえている。現地のベトナム系事業者が作っているのか、ベトナムハム(チャールア=Cha lua)やベトナムさつま揚げ(チャーカー=Cha ca)、餅

食料品店内部。ライスペーパーや麺類が豊富
レジ横で餅類や加工食品を販売

■雑貨店の若者との一幕

衣料品店や理髪店に交じって、他とは趣向がやや異なる雑貨店が1軒あったので入ってみた。籐のかごやトレー、陶製の茶器などが取りそろえられ、まるでベトナムの土産店にしているような感覚。床のタイルや商品のもセンス良く、温かみある照明で、陳列も分かりやすい。

ギフトショップのような雑貨店



店番をしていた若いベトナム人スタッフはベトナム語とドイツ語にのみ対応

するように、英語はあまり分からない様子だった。ベトナム人顧客に対応する一場面もあったが、ドイツ語が一番話しやすそう。それでも顧客からの質問には、懸命に答えようとしてくれる。一方的に売り込まない節度ある接客も含め、感じが良い店だった。

同店で小さな陶器の皿と、ミニサイズのベトナムの茶葉を購入。その際、スタッフがドイツ語で何かをしきりに伝えようとして

いた。「毎度あり!」というより、ちょっとこちらの顔色をうかがうような雰囲気だ。その心を推し量ろうとするがやはりよく分からず、申し訳なかったが挨拶をして店を出た。

雑貨店で購入した陶器とミニお茶パック

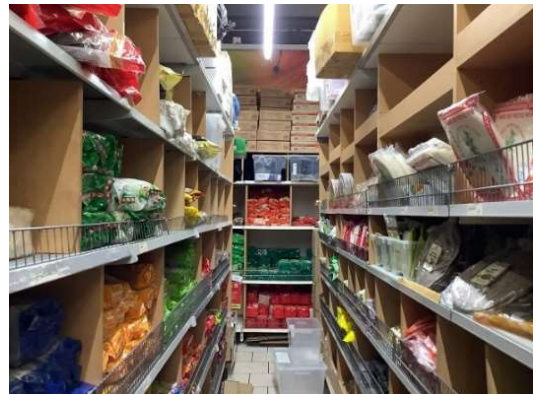
それでも、若いスタッフが何を言おうとしていたのかやはり後々まで気になった。彼が口にした中で印象に残った単語をインターネットで調べ、懸命に推測してみたところ、おそらく茶葉

が2つで3ユーロ(約510円)のところ、4つで5ユーロ(約850円)にすることだったかもしれないと気付いた。

ベトナムの市場で果物などをかう際、売り手に「本当

は2個で5万VND(約270円)だけど、5個10万VND(約550円)でいいよ」などと言われ、つい予定より多く買い込んでしまうことがある。ベルリンの真ただ中で、ドイツ語を駆使する彼にこの商法で売り込みされるとは思ってもみなかった。とはいえ時すでに遅し。またドンスアン・センターに来た際、ぜひともこの店から茶葉2つ以上を買っていきたい。

ドイツでは、ベトナム系の店や人々が他国の店、物と共存していた。それでもベトナムというアイデンティティを失うことは決してなく、現地なりの根付き方をしている様子が印象的だった。ベトナム一色のチェコとはまた違った様相。同じ欧州の隣り合う国ですらも、地域によりまったく別の表情が見られる点が、ベトナム人街巡りの楽しさだと改めて感じさせられたドイツの旅だった。



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 象地域設計

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

WHY?

え？

広告主募集中です！

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728